
浜松市立上島小学校

むくろじ



メールアドレス kamijima-e@city.hamamatsu-szo.ed.jp
ホームページアドレス <http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/kamijima-e/>

令和6年1月23日
第11号

がりょうてんせい 画竜点睛、いよいよ仕上げのとき

校長 山本 千興

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、初めての年末年始。皆様、すてきな家族団らんの時間を過ごされたことでしょう。その一方で、元旦の能登半島地震による大災害、2日の羽田空港で起きた航空機衝突炎上事故には、胸が締め付けられる思いです。被災地の皆様の安全と、1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

新年を迎え、私は今年の願いごとをしたり、誓いを立てたりしました。それを「辰年」の「あいうえお作文」で紹介します。

- 「た」たくさんたくさん笑います
- 「つ」つまらない悩みはさようなら
- 「ど」どんなときも心は強くなやかに
- 「し」しあわせは自分の心が決めるんだ

上っ子はどんな願いごとをしたり、誓いを立てたりしたでしょうか。



辰年、十二支の中で唯一、空想の生き物である龍(辰)が干支に当たる年です。龍は、「体は大蛇に似て、背に81枚の鱗(うろこ)があり、4足に各5本の指、頭には2本の角があり、顔が長く耳を持ち、口のあたりに長いひげがあり、喉元(のどもと)に逆さ鱗を有する。水に潜み(ひそみ)、空を飛んで雲を起し、雨を呼ぶ霊力がある(「精選版 日本国語大辞典」より)」とされています。中国では古来より、龍は天に昇る様子から、成功や発展の象徴として縁起がよいと言われます。令和6年が上っ子にとって、これまで積み上げてきたものや頑張ってきたことが、成功や発展につながる年になることを願っています。

「龍(竜)」が入った四字熟語やことわざはたくさんあります。その中から一つ紹介します。

「画竜点睛(がりょうてんせい)」

「画竜」とは「竜の絵を描く」こと、「睛」は「瞳(ひとみ)」で、「点睛」とは「絵に瞳を描き入れる」こと。中国の画家が描いた竜の絵に、最後に瞳を描き入れたとき、その絵が本物の竜のように空高く舞い上がったという伝説に由来しているそうです。つまり、「画竜点睛」とは、「物事を完成させるために、最後に加える大切な仕上げ」の例えです。

子供たちと学級担任は、4月から9か月、教室に互いを認め合う雰囲気や安心感をつくってきました。また、子供たちが話し合いで決めた学級目標に向かって、子供と学級担任が一緒になって、温かい学級づくりを進めてきました。さらに、子供たちは「3月には、こんな姿になりたい」という目標を立て、歩みを進めてきました。それも、残すところ3か月、いよいよ仕上げのときです。

始業式では、私から子供たちへの願いを、「辰年」の「あいうえお作文」で伝えました。

- 「た」たち止まっても始まらない
- 「つ」つき進んでいこう
- 「ど」どんどん挑戦してごらん
- 「し」しっばいしたらやり直せばいい

子供たちが竜のごとく、次の学年、中学校へ大きく飛躍できるよう、教育活動を推進してまいります。今学期も、保護者や地域の皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

「上っ子学習発表会」

担当 鈴木真弓

昨今の変化の激しい社会の中、未来を生きていく子供たちには、その変化に対応していくための力が必要になります。身に付けたい力の一つとして、与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら課題を見つけ解決していけるようになってほしいと考えています。上っ子学習(生活科・総合的な学習の時間)では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標としています。

本校では、4月から、生活科・上っ子学習で探究的な学習を行ってきました。各々が思いを巡らせ、課題について調査をしたり、実物に触れたり、試してみたりと学びを深めてきました。その中でも地域の方や外部講師と出会い、直接お話を聞いたり、一緒に活動したりする中で、新たな発見や深まりがありました。2月9日の「上っ子学習発表会」では、1年間の上っ子学習の学びを発表・発信する活動を行います。これまでの学びを、整理・分析し、まとめ、伝える経験の場となります。相手意識をもち発信する経験は多くないため、子供たちにとってよい経験になることと思います。当日は、ぜひ、子供たちの頑張りを御覧ください。※写真は、昨年度の2月の参観会の際の発表会の様子です。

「対面給食」の再開について

3学期に入り、インフルエンザや発熱による欠席者が減ってきました。そこで、本校では、以前に行っておりました「対面による給食」(班やグループで席を向かい合わせて給食を食べる)を先週より再開しました。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行以来、黙食は行っておりません。今回、対面による給食を再開することで、「食事を通して人間関係をよりよくする」「社交性を養う」という給食の目的により近づくことができると考えます。

なお、今後の欠席状況等を踏まえ、一部の学級・学年、または全校で、感染症等防止のために一時的に「前向き給食」に戻す対応を行うことがありますので、御理解をお願いいたします。